

第3回八幡地域協議会会議録（概要）

日 時 平成18年2月14日（火曜日）午後1時00分～午後5時43分

場 所 酒田市八幡中央公民館大ホール

出席者

1号委員 安藤浩夫 佐藤ひとみ 遠田清之 小野明美 堀茂雄 加藤智子

2号委員 大瀧雅士 村上三喜郎 荒生豊 佐藤貞夫 後藤純子 高橋知美

3号委員 田村和徳 後藤泉 池田善幸

八幡総合支所地域振興課長 羽根田篤 地域振興課主査 佐藤弥

企画調整部企画調整課地域振興室主査後藤重明 市民福祉課福祉主幹小松秀司（介護保険の
説明だけ） 地域振興課主任池田裕子

傍聴者 男性3人

議事日程

1 開 会

2 会長あいさつ

3 会議録署名委員の指名

4 協 議

(1) 小中学校の改編、将来像について

(2) 地域づくり予算について

(3) 地域課題について（意見交換）

5 閉 会

1 開会 … 地域振興課長

地域協議会を始めさせていただきます。はじめに会長からご挨拶をいただきます。

2 会長あいさつ … 後藤議長

雪中梅花。逆境や困難に立ち向かっていくことについてよく使われる言葉ですが、オリンピックはまだ花が咲かないようです。これから温かくなるにつれて、雪解け事故が心配されます。本日も活発なご意見をお願いします。

協議の前に … 介護保険制度、国保税、保育園バス協力金について説明

○事務局 … 市民福祉課福祉主幹が説明

○委員 ドックは安くなると説明あったが、資料を見る限り、上がったのではないか。

○事務局 今までと仕組みが変わる。国保加入者の場合は、男性で4,800円の助成があるので5,300円になるということ。

○委員 腹部エコー含みの人間ドックの料金が、今度は別の料金負担となることが、この申込用紙では町民はわからない。説明がないのは不親切である。

○事務局 説明が足りなかったと思っている。合併になって、3町でバラバラだった申し込み方式を郵送の形に統一した。初めてのことであり、今後説明するとともに、用紙の見直しをしていきたい。病院個々の検査料金について決まっていない。ただメリットとして、酒田病院、本間病院、日本海病院でも受けられる。

○委員 ほとんどの人が、内容が分からないと思う。受診した時に料金が高いことに気づき、混乱するのではないか。

○事務局 自分で医療機関に予約する必要があることも周知されていないので、受診までの手順などをPRしていきたい。現場で混乱しないようにしたいので確認をさせていただきたい。

○委員 バス運行協力金は定額なのか。有料化はスクールバスにも及ぶのか。登下校時の子どもの安全面も心配されている。有料化は安全に水をさすことになるのではないか。

○事務局 合併後のぐるっとバスは、小中学生が登下校以外で利用する場合は有料100円となった。保育園児が一人で乗車した場合は、乗車中の安全確保の配慮が必要なので有料となる。しかし、親と一緒に乗車の場合は、親が安全確保をするので親の分だけ有料、子どもは無料となる。バス協力金の考え方は、運転手やバス助手の経費負担の一部として、受益者負担があってもいいのだろうとなった。

○委員 早朝保育の保育士の時間外手当はどうなっているのか。延長保育の個人負担はしているのか。

○事務局 市条・八幡保育園での延長保育には、保育士がローテーションを組んで対応している。格別の費用負担はいただいている。保育園バスについては、政治的施策で無料化になった。保育園への送迎は保護者が園児を保育園まで送り、迎えに来るのが基本。いまどき費用の伴うサービスをただで受けるとするのはどうかということです。

3 会議録署名委員の指名

○議長 会議録署名委員の指名ですが、名簿3番委員の遠田清之委員を指名します。

続いて協議に入ります。小中学校の改編について、事務局より説明をいただきます。

4 協 議

(1) 小中学校の改編、将来像について

- 事務局 【説明要旨】・・・①25年前から6年先までの、児童数の推移を示した。②八幡小学校の児童総数が平成17年度200人を割った。③大沢小は少なくなったが、30人前後で推移。④日向小は平成23年度に19人の学校になる予想である。⑤昭和55年大沢小、日向小の統合時には、町議会の2校案の決定を覆し、旧村1校の計4校にした。⑥平田の東陽小は日向、大沢より多い児童数であるが、将来の減少を見越し今年4月に南平田小に統合する。⑦統合するには、決定から実行まで職員の配置などの3年かかる見通し。
- 議 長 委員の皆さんから小学校の統合・存続についてご意見をいただきます。
- 委 員 特認校制度は新市になっても存続するのか。市内の学校にも特認校制度の範囲を広げ、PRしていったらいいと考えるが。
- 事務局 当分の間八幡地域の範囲で継続することにしている。家庭の都合で通学しているようだ。
- 委 員 八幡地域では、生徒数が減少している。しかし、表面的には再編については手をつけていなかった。複式学級であっても存続してほしいとなるか、少人数の複式学級では面白くないので再編となるか、の二通りある。28年前は地域に学校がなくなるのは寂しいから4校案にした。しかし、今は保護者・住民の考えが変わってきているのを感じる。
- 委 員 八幡地域の子どもたちをどのように育てたいかが原点である。今の親は大きな学校がいいという。地域力を残して行きたい。「酒田市立八幡中」になって、荒れてくるのではないかという心配もある。教育委員会が結論を出す前に、考えを確立したほうがよい。
- 委 員 山新記事で、鳥海中の保護者が「この地域のような農村地域で育てたいと願う親も多く…」とある。鳥海中と八幡中を統合する等柔軟な考えはないのか。
- 委 員 平成23年に中央高校の隣に建てる新高校と県に移管された中央高校は連携して運営し、将来統合もありえると聞いている。10年もすると高校入学者が1000人を割る。子どもの数が減ることを頭に入れないとだめ。八幡に引き込むことも考えなければ。八幡中学校は先生がゆったりした気持ちで授業ができるいい環境であり、残したい。大沢・日向小の保護者は、複式よりも1学級維持できる状態が望ましいと考えている。八幡地域で小学校が一つまたは二つになることもある。
- 委 員 旧八幡町教育委員会の八幡町立適正規模検討委員会の保護者へのアンケートでは、日向小78%、大沢小54%が現状維持を望んでいる。昔の統合問題のときよりは、合併し大きい所で勉強させたいという気持ちがあるようだ。大沢小はみんな仲良しだが、切磋琢磨の環境にないところがかわいそうと思えてくる。年配の方を含めて地区が寂れるという意見もあるが、子どもの現状をみると統合はしかたがないのではないか。酒田市では複式学級を認めないということは無視できない問題。
- 委 員 昔は、学校は文化や伝統を伝える機能を果たしてきた。今、このようなことは各地区公民館事業でやっており、地区公民館の果たす役割が大きい。保護者は若いので大きい小学校になってもよいと考えているのでは。いっそのこと、小中一貫校を作るくらいの

ビジョンがあってもいい。

- 委員 小学校の統合の意見は、これから小学校に入る子どもたちの（親の）意見を聞くことが一番であるとする。それを取り入れて改編すべきである。色々な問題もあろうが、妥協できるところもあるのでは。
- 委員 地域の代表、保護者などが参加している検討委員会としては、当分の間現状の規模とすると報告されている。教育委員会協議会としては、大沢小、日向小は八幡小学校に統合することを検討する、としている。子どもは、子どもの中でもまれて過ごすことで成長が見られる。
- 委員 合併座談会の中で、これから小学校に入る親から「小学校はある程度の規模の学校でもまれて育てたい」という話が出た。保護者は適正な規模の学校を期待しているし、子どもの能力を伸ばしたい、子どもの成長を期待するのが最近の親である。
- 委員 酒田市の複式学級を認めないというのに最初反発した。最近では統合やむなしと考えている。教育には金をかけるべきである。他校と行なっている交流授業では違和感はなく、子どもの意識から見ると心配していない。統合に反対ではないがもうしばらくはこのままの形で残したい。地域の事情を考えた統廃合をしてもらいたい。
- 委員 30人が適正で、5人や6人は適正でないのか。何を判断基準としているのか。それが怪しい。複式学級が不幸とも思えない。大沢、日向小は一條小に比べても、生き生きしている。子どもの適応力はすごく、半月もかからずに市内の子どもと仲良くなれる。大沢、日向小が学力低下になったとも聞いていない。合併することを前提にした適正人数であり、統合するための理由に過ぎない。
- 委員 母親と父親の視野が違う。男性は視野が広く様々の情報で判断すると思うが、母親は子どものことを見ている。一人、二人の同級生では不安。友達になれなかったらどうしようなどと心配。小規模校では、上下の関係は学べるかもしれないが、同学年の関係は学ぶことができないのでは。今の八幡小学校のように一学年二クラスあるのが子どもにとっていい規模。
- 委員 一條小は全校児童 120 人。一クラス 20 人程度。一條地区は自然豊かで、酒田まで 10 分と近い。今まで学校と地域は寄り添ってきた。統廃合は難しいことなのかなと思います。
- 委員 酒田市が複式学級を認めない根拠を教えてください。財政難が原因なのか。
- 事務局 旧酒田市では、複式にならないようにしてきた。それを崩したくないということ。背景については次回にお答えしたい。合併調整方針では、旧市町のそれぞれ違った現状を認めており、学区編成するということは合併前に調整していない。新総合計画は平成 19 年 9 月議会に上程したいと市長の考え方であるから、新たな統合計画はこれから考えられることになる。
- 委員 本楯小、上田小の統合は、上田小に新入生がいないので複式になるというので、父兄から見ると無理やり統合された認識がある。たぶんだが、複式を認めないというのは鳥海小の前例があるからである、という話を聞いたことがある。
- 委員 複式を認めないのは旧酒田市の方針。新酒田市の方針ではない。複式を認める、認めないという議論は、ここに持ち出す話題でないはず。これからこうするという現在の

方針があるのであれば別だが。

- 委員 子どもたちを学ばせる状態をどのように考えるかが教育委員会の役目である。
- 委員 統合を拒否することが将来に禍根を残さないのか。将来を考え、複式学級を解消したいとするのか、考えなければならない。保護者が真剣に考えていく必要がある。複式でなければ、学級の児童数は少ないほうがよいと考える。社会人としての教育を考えると、20人くらいが最高の環境でないか。
- 委員 新聞報道の酒田市教育委員会の動きは、市町村合併を無視した動きである。中学校学区の組み合わせはさまざま考えられ、東平田を八幡中に一緒にするのも考えられよう。この動きはおかしいと、教育委員会に伝えるべきでないか。
- 委員 この協議会の意見はいつごろまとめるのか。また、まとめたものをどのように発表、生かしていくのか、事務局に聞きたい。
- 事務局 協議されたことが行政に伝わり、地域づくりにつながらないと意味がないということになる。意見を伝えることの一つに、市長に報告する場がある。合意されたことだけではないが、話し合われた内容を伝えていきたい。
- 委員 この協議会の場だけで結論を出すのだとすれば、保護者の意見を聞かないでいいのかという問題がある。日向小、大沢小がこれだけ少人数であることは、異常な事態である。5、6年生は心と体が成長する上で大事な時期。複式学級に賛同できない。県が適正人数を考えてやっているが、それが今の時代にマッチしたところでないか。
- 事務局 ここでの話が合意できるのであれば、それが地域協議会の意見としてよいのではないか。市長との懇談以外でも、地域振興課長会議もあるし、支所長の会議もあるので、話し合われたことを上げていくことになる。
- 委員 財政問題を抜きにして考えるべきだというのが、酒田市が中学校再編をするのは、教育水準は落とさず財政面を考えた上でのことである。新市になっても、絶対に今の小学校を維持するとはならないのでないか。無駄を省いて効果を上げていかないと、今の財政では市民の要求に応えられない。酒田の一体となった考えを評価する。
- 委員 小中学校は義務教育。平等に教育を受ける権利を持っている。これまで行政が決めたことが本当によかったことばかりなのか。小中学校は、義務教育行政で方向を決めてから進めるのではなく、民意を反映した論議で判断してほしい。教員のレベルが落ちていて、先生一人で40人は教えられない。決まったことだから、大同はこうだから、それになびくというのはおかしい。学校統合のことには、子育ての現役でなくてもいいので、しっかりした議論をして、地域の盛り上がりをつくって行政が理解し、実施してほしい。
- 委員 適正規模検討委員会の結論では八幡中学校は存続の方向であるが。
- 委員 八幡中学校5年経ったらどうなるのか。今、大沢小、日向小が直面している問題にぶつかるのではないか。
- 委員 日向・大沢の気持ちは一條・観音寺の人にはわからない。統合には3年かかるということなら、今年辺りから方向性を詰めていかないといけない。

4-(2) 地域づくり予算について

- 議長 もっと話をしていきたいが、ここで教育、学校改編の話は終わりにします。つづい

て地域づくり予算の協議に移ります。

- 事務局 学校改編のことについては、今日で結論を出さなければならないことでもないですし、今はこれくらいで終わりにします。八幡の地域づくり予算の各事業について簡潔に説明。今回は皆さんの意見を地域づくり予算に反映させることは間に合いませんでした。19年度もしくは補正の道もあるので、意見を出していただき考え方をまとめてほしい。
- 委員 昨年が最後の開催とした産業まつりは、反省会で独自でやりたいとなった。商工会と農協で資金を出したが、市でも予算化してもらえないか。平田には地域振興まつりが地域づくり予算として計上されている。19年度には、地域づくり予算に載せ、表面に出る形にしてほしい。産業まつりは商工会、JA、旧町の3者で行なってきた。3者で50万円ずつ出すようにならないか。
- 事務局 地域づくり予算には計上されていないが、商工港湾課の予算に商工会への補助として事業費の2分の1、27万円を助成することになっている。実行委員会の受け皿として商工会補助にした。
- 委員 平田に首都圏の就学旅行を受入れる都市・農村農業体験交流事業があるが、これからの修学旅行の主流になるのではないか。民泊して農業体験するわけだが、旧町単位ではなく、鳥海山への登山などの展開など八幡とのつながりができないか。また、修学旅行の誘致、グリーンツーリズムの実施を市として考えられないか。
- 委員 中学校の海外派遣は、地域づくり予算の中に入れてほしい。
- 事務局 中学生の海外派遣は平田と一緒に事業のため、教育委員会の本予算に計上されており、平成18年度は今までと同様に実施する。平田の体験農業の実施は、合併したからといって、急なまとめ方はできない。酒田市全体でやればメニューは広がるので、どのようにメリットを生かすかは今後検討する。
- 委員 平田は民泊の受入の素地がある。八幡でも民泊の受け入れ家庭のストックがあるはず。八幡がそういったことをやってこなかったことが悔しい。行政も手伝って作ってほしい。
- 委員 団塊世代の受け入れの方策はどうか。農業は認定農業者を中心とした地域営農になる。農家に若い人がいない。団塊世代を農業に目を向けさせる方策の予算化、基盤づくりも考えてほしい。
- 委員 花いっぱい運動は平成17年度より増えているか。花の種類は増えているか。
- 事務局 区で行う花いっぱい事業は教育振興室の事業で、昨年同様50万円ほどが予算化されている。ほかに都市計画課が行う美化サポーターに応募いただき、花の種などをもらうことになる。

4-(3) 地域課題について

- 議長 続いて次第の(3)地域課題について、に移ります。ご意見のある方どうぞ。
- 委員 五つほどお話したいことがある。一つは、酒田市職員にお願い。八幡総合支所からの郵便物で前の八幡町の封筒をそのまま使っているときがある。町の封筒を使う場合、シールを貼るなどして、酒田市としての一体感をもってもらいたい。二つに、イヌワシの

餌場である鳥海山のスノーモビル全面禁止にしてほしい。また、八森自然公園周辺の鳥獣保護区制定のお願いである。三つ目に、桜橋から舞鶴橋間の荒瀬川右岸の土手の道の速度規制を望む。四つ目に、夕方の公共の乗り物ぐるっとバスを運行したらどうか。また、バスや親の送迎を待つときに、時間を過ごせる場所として図書館の充実を望むことである。五つ目として、奥山林道の入り口付近のトラクターの残骸を処分していただきたい。

- 委員 廃棄物の話になると、共用林野入山料の話になる。この件では高山植物のことなど色々の問題が絡んでいる。鉄くずが高値なことでもあり、無償で持っていく業者がいるのではないか。
- 委員 スノーモビル鳥海山全面禁止は、イヌワシの餌である小動物がスノーモビルで蹴散らされてしまい、餌場を失ったイヌワシが巣作りをしなくなる。趣味であるスノーモビルは餌場でないほかでやってもらいたい。
- 委員 経験からすると、危害を加えないと分かればイヌワシは逃げないと思うが。
- 委員 八森自然公園は住宅地に身近な自然を残す意味でも大事と考える。公園の周辺を鳥獣保護区にしてほしい。
- 委員 鳥獣保護区にして、熊が出たらどうするのか。実際柿などに被害が出ている。生活圏と自然保護をどのように了解させるのか。
- 事務局 被害が発生すれば、有害鳥獣駆除できると思うが、この件について検討させてください。
- 委員 荒瀬川右岸の川原の土手の道が舗装されたため車がスピードを出して走行している。子どもたちの散歩道になっていることでもあり、速度制限をしてほしい。
- 事務局 交通安全協会や道路管理者などに相談する。色々な手法があると思うので検討したい。
- 委員 部活動が終わる時間までバスを増やすことが出来ないか。また、バスが来るまで、迎えに来るまでの間、子どもが安全に過ごせる場所として図書館がいいのでは。図書館があれば年代を越えた交流もできる。
- 委員 私は遊佐町の図書館を利用している。遊佐の図書館は図書に親しむ雰囲気がある。
- 委員 図書館の建設予定はないのか。
- 事務局 以前は 19 時中央公民館発のぐるっとバスがあったのだが、乗る人が平均一人以下なので、経費がかかることでもあり廃止した経緯がある。八幡町の構想としては、中央公民館を整備し、そこに図書室の整備だったのだが、平成 18 年度に実施設計、19 年度から建設の予定があったが、後年度送りとなった。
- 委員 合併前の約束の中央公民館整備予算が見送られたとすると、問題である。合併前の約束事として、中央公民館を造ることになっているのに、覆すことになる。この場で我々が大きな声として出していかなければならない。
- 事務局 中央公民館整備は後年度送りとなっている。中央公民館は耐震診断でだめと結果が出ている。建設計画に載っていたものは、きちんと整備して欲しいという意見をあげていく必要がある。中央公民館には図書室が必要で、他にもこんな機能がほしいといった具体的な内容を提示する必要がある。
- 委員 奥山林道は升田から秋田県境までの約 12km、雨がふると通行止めになったりする

ので、整備のため旧鳥海町と促進協議会を開催している。去年の協議会では、将来に向け必要だとして、継続してやるとして別れた。市町村合併によって市というでかい組織として継続してもらいたい。

話は変わるが、春には猫の仔を捨てていく。野良猫が 20 匹以上もいて、糞の害、戸を開けておくと隠れて仔を生む。市本所でも話題にしてほしい。管理人がつかないといけない。春になる前に、先手を打っていただきたい。

○事務局 不法投棄の防止対策から始まった共用林野協議会。みんなが関連している感じですが。猫の話と奥山林道の話を一っしょにしては市長に伝えるにくいこともあるが。平成 4 年から続けていた協議会でもあるので申し上げなければならない。

○委員 図書館については、中高校生からも要望が出ている。公益文化大学まで行っている子どももいる。ぜひ整備してほしい。

○委員 一つは、除雪のクレームだが、合併したらサービス悪くなったとしいのでは聞こえが悪い。飛澤神社前の土井さんの家まで、去年は除雪していたのに、全然除雪していない。二つ目は、湯ノ台大台野間の県道。去年は通られたのに。

○事務局 荒町の除雪がなぜ除かれたのか調査する。湯ノ台大台野間の県道については、雪庇がつき雪崩の心配があるので初めから除雪しない計画である。

○委員 この協議会の持ち方だが、結論を出すような会議にするのか、意見言いつばなしの会議でいいのか。また、出された意見の確認をすることがあればいいのだが。

○事務局 基本的なことなので。今日の小中学校統合の問題のように結論の出ない、出せない問題については、一応の締めくくりにするということです。いろいろなご意見についても、すぐ答えられるものはお答えしていきたい。また、即答できず担当などに届けるものもあると思う。皆さんの中で、結論を出すことが可能であればそれは別となるが。

○事務局 会議録の最初に、話し合われた内容、得られた結論、主に意見などを書いている。それを見ていただければ会議の概要が分かる。

事務局からお願いだが、由利本荘市鳥海総合支所の地域協議会から、3 月の半ばころ、皆さんと懇談したいと要望されている。日程が決まり次第案内するので、出来る限り参加願います。

また、18 年度の協議会の持ち方ですが、皆さんから十分なお話をいただくことは時間的に出来ないと思うので、3 月中に地域づくりについてお考えを文書でアンケートしたいと考えている。

5 閉 会

○議長 地域協議会だよりを出したほうがよいと思う方挙手をお願いしたい。(挙手多数)では、出すということで事務局に一任する。

活発なご意見、長時間にわたりありがとうございました。来年度は前進して行きたいと思えます。それでは本日はこれで閉会します。

～午後 5 時 43 分閉会～